



三田国際学園中学校・高校
東京都世田谷区 ▶ 1902年戸板裁縫学校として創立。1948年戸板女子高校発足、2015年三田国際学園中学校・高校に改称
▶ 全日制・男女共学(高校：普通科4コース) 生徒数1230人(中高合計)
▶ 主な進学先：首都圏の私立大学が8割、海外大学が1割(偏差値偏重の大学進学がゴールではないため具体的な大学名は非公表)。指定校推薦21%、AO28%、推薦15%、一般25%、センター入試8%と、AO・推薦入試を積極的に活用

Case Study

伝統の女子校から21世紀型教育の共学校へ

三田国際学園中学校・高校

2015年度に戸板中学校・戸板女子高校から改称、共学化し、大胆な改革を実行。独自の21世紀型教育が、多くの保護者や生徒の支持を集めている。

ベクトルを一つにして
拡散された力を再結集

私が入職したのは校名改称の1年前です。明治時代から続く伝統ある女子校でしたが、当時、中学は1学年1クラス、高校は2クラス程度の生徒数。各教員はそれぞれ真摯に取り組んでいたものの、学校としての教育ビジョンがなく、力が拡散してしまっていました。閉校も視野に入っている中、大橋清貫学園長が進めた起死回生の一手が、共学化を伴う改革でした。

保護者も含めた話し合いの結果浮上したのは、「社会が変わったのに、進学実績目的の教育のままではないのか」という疑問です。子どもの幸せは偏差値の高い大学への合格ではなく、もっと先にある。そんな思いから正解のない時代に自力で道を切り開く*「発想の自由人」の育成を始めました。

この21世紀型の教育に取り組むにあたりわれわれは、まず変化し続ける世界に必要な能力・行動特性を12のコンピテンシーに具体化する。同時に、生徒の内省が目的のメタルーブリックを作り出した。シラバスも公開し、生徒が何が得意になるかを自覚して各授業に臨めるようになりました。

本校の授業は、考える力を伸ばすために、どの科目も「トリガークエスト」から始める「相互通行型」を徹底しています。例えばある数学の授業では「1次関数のようなテニスのサーブとは？」という問いに対して、生徒たちは教室を出て、実際にコートでサーブを打って検証、結論をクラスにプレゼンします。さらに数学で学んだことを物理の授業で使うなどの教科横断型の探究学習にも努めています。この実現にあたってはシラバスの共有のほか、職員室の

机上に物を高く積まないといった教員同士の密なコミュニケーションを促す工夫もしています。

生徒には、このような学びで得たことをポートフォリオに蓄積させていきます。これは入試対策用に「ドローイー」を並べるのではなく、振り返る習慣を付けさせるため。卒業後も持ち運べるポートフォリオをめざしています。

やりたい探究ベースの「八ヶ岳型」の進路選択

本校では複数のコースを用意しており、希望する進路にあった学びを深めることができます。世界に関心が向けば、オールイングリッシュの授業を受ける。研究者志向なら、実験に打ち込む。自主的に大学教員に話を聞きに行く生徒もいます。

生徒の進路は多様化してきました。約1割が海外大学に進学し、国内組も偏差値ではなくそれぞれが「この研究室で研究したい」と明確なプランを持つ「八ヶ岳型」の進路選択です。そのため入試方式は、AO・推薦型を勧めています。ただ、研究室ベースで進学先を選ぶには、現状では情報がなく、意中の研究室があっても、彼らの意欲や知識を生かせる入試は、そう多くはありません。生徒は「どの大学でもいい」、大学は「誰でもいいから入学してほしい」ではなく、「この大学でこれを学びたい」「この生徒が欲しい」と言い合える関係が、高大接続の一つの理想ではないでしょうか。本校出身者の入学後の活躍を見て、「こんな生徒を獲得するためには……」と大学が入試を再検討してくれることを願いつつ、生徒を送り出しています。



教頭 学習・進路指導部長

田中潤

たなかじゅん ● 教職歴16年。前任校では教務や進学指導を担当し、難関大学に多くの生徒を送り込む。2014年戸板中学校・戸板女子高校に赴任。ビジョンの推進役である学習・進路指導部長に就く。2017年より現職。担当は社会科。

取材・文/見山雄介 撮影/亀井宏昭

学びのプログラム

教育目標 変化し続ける世界で求められる「発想の自由人」の育成

		中1	中2	中3	高1	高2	高3	
キャリアテーマ		自己を知る	自己の世界を広げる	自己の進むべき道を選択	自己を再構築する	自己を表現し世界とつながる	進路目標の達成	
主な学び	考える力	相互通行型授業 全科目で「疑問→仮説→検証→結論」の論理的思考プロセスで試行錯誤					受験合理性追求型授業	
	英語	実社会で使える英語の習得 ネイティブスピーカー教員による国際感覚も身に付く4技能養成/学習歴・希望進路に合わせた検定受験支援						
	サイエンス	論理的思考を習慣づけ世界を見通す視点を養う 「なぜ?」を一から考える実験授業/大学研究室レベルの設備/現役の研究者が教員						
	ICT	ともに「考える」パートナーとしてのICTリテラシーを養う 一人一台タブレット/プログラミングを学び、ユーザーからクリエイターへ						
クラス・コース	本科クラス	基礎ゼミナール			本科コース Liberal Arts 文理別授業			
	インターナショナルクラス	3レベル展開の英語授業			インターナショナルコーススタンダード 長期留学・短期留学			
	メディカルサイエンステクノロジークラス	基礎研究α			インターナショナルコースアドバンスト 英数理社はAll English メディカルサイエンステクノロジーコース 基礎研究β			

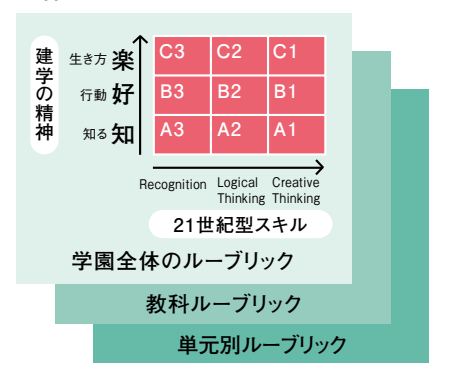
注目!

教育ビジョンを授業に行き渡らせる
ルーブリックが躍進の原動力に

改革から4年、同校の経営は劇的に改善した。今では生徒数は以前の4倍強、募集人員160人に対して出願者総数が3000人超の、都内屈指の人気校だ。同校の教育ビジョンに多くの保護者が共感、期待した結果と言える。

躍進の背景には、教育ビジョンの統一と共有がある。「日本の教育現場では各自の暗黙知は高くても個々で分断されがち。それらを出させシェアするために、ボトムアップ型の研修を頻繁に行っている」(田中教頭)。授業は教員に任せているが、方針や質の担保を可能にしているのが、全校共通のメタルーブリックだ。横軸に21世紀型スキルを、縦軸に学習者が取るべき姿勢を表した建学の精神を配置。これを基に教科や単元のルーブリックを作成し、全授業をメタルーブリックにひも付けている。教員には、自分が21世紀型教育の一端を担っているという意識が根付いているという。

3層のルーブリック



*その育成に必要な要素として、5つの力(考える力、英語、サイエンスリテラシー、コミュニケーション、ICTリテラシー)と、12のコンピテンシー(共創、創造性、責任感、社会参画、リーダーシップ、率先、探究心、生産性、コミュニケーション、問題解決能力、革新性、異文化理解)を設定している。